

指導者になる

エデュケーター養成講習会

全国各地で開催されています。講習会ではプロジェクト・ワイルドの目的やテキストの活用方法、実際に子どもたちの指導法などを模擬体験を通して学んでいただけます。詳しい講習会情報についてはプロジェクト・ワイルドホームページに掲載中です。



※ 資格取得は18歳未満でも可能ですが、資格が正式に有効となるのは18歳以上からです

スキルを上げる

ファシリテーター養成講習会

年に2回、秋と冬に開催します。エデュケーター資格を取得し実績経験を積んだ方が講習会を受講して資格を取得することができます。



エデュケーターフォローアップ講習会

200近くあるアクティビティを1～2日の養成講習会でマスターすることなどとてもできません。毎年、本国（アメリカ）のアクティビティもスクラップ&ビルトされていきます。指導者間における最新情報の共有、指導者のスキルアップを目指した講習会を開催します。

本編・水辺編とサイエンス&シビックスのプログラムがあります。

野生生物（陸生・水生）とその生息地を模擬体験を通して環境を学ぶプログラム



科学と社会のしくみなどを包括的に学習し、環境問題の仕組みを理解し、解決するための知識と行動を起こす方法を学ぶプログラム



谷折 折り目

指導者をさがす

全国には約24,000人の一般指導者、約550人の上級指導者がいます。
(2017年3月現在)

開催予定日、実施場所などお気軽に事務局までご連絡ください。講師を派遣いたします。



プロジェクト・ワイルド

検 索

「想いを伝えるツール」 シニアファシリテーター 関 隆嗣 氏

私は、青少年団体に所属し、自然体験活動や交流事業を長く担当しています。この仕事に就いた15年ほど前、様々なNPO団体が実施する子どもを対象とした体験活動は、どれも似たり寄ったりな印象でした。その頃の私は、自身の仕事である体験活動に何か独自性をプラスしたいという思いと、アメリカ発の環境教育プログラムという物珍しさもあって、Project WILDを学んでみようと思いました。

まず、講習の最初は座学から入りました。その歴史やプログラムについて説明を受けたのですが、心に響いてきませんでした。ところが！アクティビティの体験に入って5分も経たないうちに、私の心に響き始めたのです。体験からの学びが、心にスッと気持ちよく入ってきました。肚に落ちた！という表現が当たるのかもしれませんが。動物の生態をゲーム感覚で楽しく体験しながら、学びを深めていくことができました。体験と学びがうまく結びつき、そのどれもが「うなづき」と「納得」と「感心」できるものでした。

それからというもの、キャンプのプログラムや学校の出前授業、指導者養成講習会を自ら開催するなど、Project WILDとは、もう10年以上の付き合いになります。

6年ほど前から、本場アメリカから講師を日本に招いて講習会も開催されています。アメリカの大地に生きる動植物についてより深く学ぶことで、自身のグローバルな視点、感覚にも磨きをかけることができている。

私にとってのProject WILDは、プログラムを通じて野生動物の生態を伝えることはもちろんですが、自然に対する想いを同じくする全国の人たちとつながることができる大切なツールとなっています。そして、私たちが次世代に引き継がなければならない「自然WILDLIFE」を、気持ちよく教え、伝えることができるのがProject WILDなのです。



谷折 折り目

学校

対象年齢やフィールド、参加人数、地域に合わせてアレンジしたアクティビティが授業で実施されています。海辺の学校では海中生物を用いて学習するなどの工夫で、子どもたちの興味も増し自然の営みをイメージしやすくなります。現在、全国各地の様々な教育機関の現場で取り入れられています。



動物園・水族館

動物園や水族館は、実際の動物たちと間近で向き合える場となります。ここでは、本物の生きものにふれあいながら、動物の特徴と環境を同時に学習することができます。



地域

子ども会での海や山への遠足や、公園での自然観察会、市民を対象とした体験教室のイベント等で活用されています。

また、ボランティア団体、NPO法人などが実施する、小・中・高校への出前授業等でも活用されています。



企業

CSR活動として企業が取り組む地域社会への環境保全活動の一つとしても取り入れられています。

また、指導者養成講習会は、環境保全を学ぶだけでなく、合意形成を図るトレーニングや発表能力を磨くなどの人材育成にも優れていることから職員研修等でも活用されています。



プロジェクト・ワイルドは、様々な場面で活用されています

私は中学に入学するまでは、本当によく自然の中で遊びました。まだまだ自然が溢れていた時代です。勉強なんてそっちのけでした！周りの風景をすべて真っ赤に染める夕焼け、蝸の鳴き声がこだまする神社、夏の渓流で釣り上げた虹色のハヤ！大きなクワガタを採るために踏み込む真っ暗な森、もう40年近く前の話なのですが、当時の記憶は今でも、鮮明に思い出すことができます。幼い頃の記憶は心に刻み込まれるのです。

この経験が私のへこたれない精神力の源です。そして、今でも心に過度のストレスがかかると、昔の記憶がフラッシュバックします。それはとても心地よい感覚です。「そんなに思いつめて考えなくていいよ！自分が信じる道を進んだらいいよ！」ってやさしく囁いてくれているような…。今の子どもたちは、自然に もっと触れて育つ必要があると思います。自然は学校で学ぶことができない素晴らしいことをたくさん教えてくれます。そして、強い心を育ててくれるのです。残念ながら、今の子どもたちは、自然に触れる体験があまりにも少なすぎると思います。私たち大人が、子どもたちに、その機会を作ってあげる必要があります。プロジェクト・ワイルドはアメリカで開発された環境教育プログラムです。しかし、その思い！ねらい！は日本もアメリカも同じです。是非、プロジェクト・ワイルドのアイデアを使ってください！きっと子どもたちがワクワクするような体験のお手伝いができると思います。

アクティビティの紹介

プロジェクト・ワイルドは野生生物になりきる『模擬体験』を通して環境を学ぶプログラムです。

現在、約200のアクティビティがあり、総合的な学習の時間や各教科、野外活動など、様々な場面に応じて使うことができます。

●本編「瞬間冷凍動物」

野生生物は、捕食者と獲物の関係（例えばキツネと野ウサギ）において生きるための様々な行動をとります。例えば、獲物の行動には迷走する・戦う姿勢をとる・隠れ場所に逃げ込む・動きを止めるなどです。

このアクティビティでは「氷鬼（こおりおに）」に似た要領で、営巣地・食事場所・隠れ場所として設定したコートをつくり、捕食者と獲物に分かれて生き残りをかけた鬼ごっこをします。



体験からこんなことを学びます！

- 捕食者と獲物の両方に重要な「適応」
- 捕食者と獲物の関係など、野生生物の個体群に影響を及ぼす制限要因



日本代表コーディネーター
川原 洋（ひろ）

山折
折り目

Project WILD[®]

気づく楽しさ 知るよろこび
いきものから学ぶ環境教育プログラム

概要

野生生物を題材として環境を学ぶプログラムです。「自然を大切に」と理解するだけでなく「自然や環境のために行動できる人」を育成することを目的としています。

米国にて、教育者・環境保全や自然保護に関わる人・企業や産業の代表者など様々な視点をもつ多くの人々の協力を得ながら開発が続けられており、現在では150万人以上の指導者が養成されています。

日本の他、カナダ、チェコ、インド、アイスランド、スウェーデンなどの国々の環境教育現場でも導入されています。

プロジェクト・ワイルドでは、
一つの活動をアクティビティと呼んでいます。

アクティビティの特徴

- 子どもたち主体の体験型学習で、誰もが楽しく参加することができます。
- 授業の形態や地域の特性などに合わせたアレンジができます。
- グループ作業やプレゼンテーションの機会が多く、コミュニケーション能力、発表能力を磨くことができます。
- 内発的な疑問『なぜ?』を促し、解決までの過程を重視しているため、建設的に考える力が身につきます。
- 様々な考えを共有し他の意見を取り入れるため、多くの『気づき』を得ることができ、さらなる深い考えへと発展させます。

プロジェクト・ワイルドは、環境教育推進法における人材認定等事業[※]において環境省、国土交通省から認定されています。

※人材認定等事業とは、環境の保全に関する「指導者を育成する事業」または「指導者を認定する事業」を指し、2017年3月現在、45団体が登録されています。



お問い合わせ先

(一財)公園財団 プロジェクト・ワイルド事務局 TEL03(6674)1188
〒112-0014 東京都文京区関口1-47-12 江戸川橋ビル2階
電子メールアドレス:projectwild@prfj.or.jp

(2017年3月)

山折
折り目

折った後にトップ

環境教育プログラム

プロジェクト・ワイルド



一般財団法人 公園財団